

私の一文字「縁」

副代表幹事
程 近智

アクセント
相談役



“縁”がつながることの面白さと可能性

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、程近智副代表幹事にご登場いただきました。

程 私は年齢とともに、あらゆる縁やつながり、そこから生まれる新しい気付き、また別々の場所にいた人々が異なる場所で引き合わされる、全ての人や物事は6ステップでつながるといふ仮説「六次の隔たり」を体験、実証することを面白く思うようになりました。そのつながりの先の広がり、無限の可能性を感じていることもあって、今回「縁」という文字を選びました。

岡西 縁は「縦糸」と「象(タン：端の意)」から成り、織物のへり飾りを言います。へり飾りがどんどん広がっていくところから縁が広がっていくという意味になったそうです。縁は本来15画ですが、今回「六次の隔たり」のお話を伺い、6画にこだわって書かせていただきました。

程 私が人と人とがだんだんつながっていくことを面白く感じるようになったのは、40代からだと思います。米国の大学を卒業後、外資系のアクセントに就職したのは偶然もありますが、世界との縁を切っちゃいけないと思ったのです。僕の性格もあります、あちこちに根を張るのが好きなんです。最初の勤務地は自国から、という弊社の方針もあって日本との縁も復活し、海外との縁もキープできました。

岡西 そこからずっと世の中、つながっていくのですね。

程 2005年にスタンフォード大学の卒業式でアップルの創業者の一人、スティーブ・ジョブズが「コネクティングドッツ」という有名なスピーチをしています。大学に通う価値が見いだせずに退学したけれど、その分面白そうな授業に潜り込み、文字を美しく見せるカリグラフィーの講義を学んでその知識を全てマックに注ぎ込んだと。だから学生たちに、点と点がどう結ばれていくか分からないけれど、それを大事にしないで、いろいろつながっていくからいずれ分かるよと。このスピーチを聞いたとき、「あ、これだ!」と思いましたね。私はそのとき45歳。ちょうど社長になった時期でした。点と点が線になり、線と線が面になっていき、面のような縁ができる。人生って面白いなと感じます。この歳になると、縁をつなぎまくる感じですが、自分が感じていたことは、ジョブズも言っていたんですね。

岡西 私も20代の時、会いたいと思った人に、何人かを介して確かに会えた、という経験があります。経済同友会で程さんは今年、デジタルエコノミー委員会の委員長にご縁がありました。

程 ここではインターネットで世界がつながったり、格差ができたという話を議論します。「六次の隔たり」の仮説が本当に可能になってきたのは、ソーシャルメディアの存在が大きい。隔たりのリーチが善にもつながるし、悪にもつながる。リアルとバーチャルが今後どのように融合し、人と人との出会いが縁になっていくか。また、いい縁をいくつつくれるか。それは、とても面白いしやりがいを感じています。経済同友会は、たくさんの縁をいただくプラットフォームなのです。会員と外の人とをつなげたり、経営者同士をつなげたり、また、新しい縁からビジネスが生まれたり、アイデアが生まれたり。そんな人と人をつなげるプラットフォームとしての役割をどんどん増やしていければと思います。

書家

岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

